

#### (4) 晩期合併症と長期フォローアップ

小児がんは、治癒するようになってきた一方、成長や時間の経過に伴って、がん自体の影響や、薬物療法、放射線治療など治療の影響によって生じる合併症＝「晩期合併症」がみられます。適切な対処をするためには、定期的な診察と検査による長期フォローアップが必要です。診察で異常がみられた場合には、各分野の専門医と連携して治療が行われます。

妊娠の可能性を残す → P19

#### (5) 養育支援訪問事業

各市町村では、育児に関する不安や孤立感などを抱えている方などを対象に、支援員が家庭を訪問し、育児に関する様々な悩みを聞き、育児の負担感を少しでも軽減できるよう、育児や家事の手伝いや、育児に関する専門的な支援を実施しています。

📞 問い合わせ先 各市町村児童福祉担当課 → P96

#### (6) 一時預かり事業、病児・病後児保育事業

一時預かり事業は、保護者が病気や冠婚葬祭など、一時的に家庭での保育が難しい場合、乳児または幼児を保育所等において、一時的に預かる事業です。病児・病後児保育事業は、病気のため、保育所に預けられない子どもを医療機関等で一時的に預かる事業です。

📞 問い合わせ先 各市町村児童福祉担当課 → P96



#### 覚えておくとよいこと

小児用車いすのリサイクル貸し出しもあります。

〒900-0004 那覇市銘刈2-3-1 那覇市民協働プラザ2階  
那覇市民活動支援センター内 福祉とまちづくりを考える会 代表：福村

📞 080-9093-3211

E-mail: fukumura2967@hi.enjoy.ne.jp

Facebook・Instagram: 「福祉とまちづくりを考える会」で検索

福祉用具・介護用品の貸与 → P59

## 5. AYA 世代のがんを考える

### (1) AYA世代のがん

AYA世代とは、Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の頭文字をとったもので、A世代（Adolescent、15～19歳）とYA世代（Young Adult、20～39歳）を指しています。この年代は、中学生から社会人、子育て世代とライフステージが大きく変化する年代であり、患者さん一人ひとりのニーズに合わせた支援が必要です。

20歳代までにかかるがんは稀なものが多く、原則としてがん診療連携拠点病院を受診することが勧められます。さらに、15～19歳は小児期のがんと同じ種類であることが多く、心身ともに発達の過程にあるため、小児科で診療を受けることが勧められています。

AYA世代ではがんの治療前に、主治医からがん治療前に妊娠するために必要な能力（妊孕性）<sup>にんようせい</sup>を温存するための「妊孕性温存療法」についての説明があります。主治医と何度も面談をすることや、琉球大学病院「がんと生殖医療カウンセリング外来」で相談することが大切です。

また、親、兄弟、恋人・パートナー、子どもとの関わりは生活の中で切り離せません。悩んだときには、話しやすい医療者やがん相談支援センターのがん専門相談員に相談してみましょう。

学業の継続や仕事の継続、就職活動など、様々な問題への対応がすぐに求められることもあります。そのような方のためにはがん相談支援センターがあり、すべての相談に対応していますので、積極的に利用することが重要です。

がん相談支援センター → P10

妊娠の可能性を残す → P19



国立がん研究センターがん情報サービス AYA世代の人へ

[https://ganjoho.jp/public/dia\\_tre/diagnosis/aya.html](https://ganjoho.jp/public/dia_tre/diagnosis/aya.html)

※県外ですが以下の活動団体があります。

若年性がん患者団体 STAND UP!! ～がん患者には夢がある～  
<https://standupdreams.com/contact/>